

[ エリザベト音楽大学3号館 ]



設計者 清水建設(株)広島支店一級建築士事務所

施工者 清水建設(株)広島支店

建築概要

建設地	広島市 中区幟町	用途	大学
構造規模	RC造、一部S造 地上6階建	延面積	1,834.02 m <sup>2</sup>

[ 推薦概要 ]

この作品は広島市の中心部にありながら隣接する世界平和記念聖堂の存在が閑静な街区を作り上げている街角の敷地に建てられた、既存の音楽大学の教室、練習室と図書室と事務室、学長室、応接室、執務室、会議室の増築である。計画的にはまず既存の音楽大学施設との関係性の構築が無理なくなされているが、それは極めて高度な計画的な力量がなければできない複雑きわまるプログラムが解かれていることとして評価されるべきものである。共通の入り口から1階の事務室、2階の図書室と学長室と応接室、会議室、共通執務室、3階の教室と4階の図書室、5階のレッスン室と研究室、6階の会議室という大変複雑諸室を無理なく連結し、シンプルなヴォリュームとして計画すると同時に、その複雑な諸室の関係を保ちながら、さらに既存棟の室どうしの関係をつくりあげつつ、合理的な構造計画として成立させていることは3次元の難解なマトリックスを解く優れた設計能力としてさらに評価される。このように一見単純なヴォリュームの中に複雑な全体としての関係を構築する必要性は都市の中の限られた敷地における増築では不可避な与条件であるが、それらを解決しさらに周辺の都市空間に対して敷地の南面と東面に公共的な空間をさりげなく儲けていることは都市の角地での建築の設計としての優れた配慮があるといえる。

特筆すべきは南側の階段とガラスのカーテンウォールの処理で、動線としての階段をデザインとして成立させるために、階段寸法と建築法規を熟知していないとできないデザインであり、このことは建築士事務所のデザインとはどのようになされるものかという手本として評価されるべきものであろう。さらに階段室の色彩計画はこの大学のコンテキストであるキリスト教文化との連関をモチーフとしてこの大学独自の文化性を表現しながら、街並みの中でファサードであるだけでなく、夜間には照明サインであると同時に都市のオブジェとしても存在する。建築デザインとしての全体的な総合性が、コスト計画も含めた見えない計画としてなされた上での総合的なデザインとして大賞として評価した。

## 優秀賞

## [ 北広島町立壬生小学校校舎 ]



設計者 中電技術コンサルタント(株)

建築施工者 錦・ジール特定建設工事共同企業体

## 建築概要

建設地	山県郡 北広島町	用途	小学校
構造	木造、一部 RC 造 地上 2 階建	延面積	3,460.97 m <sup>2</sup>

## [ 推薦概要 ]

広島市近郊の里山と住宅地が混在する町の木造の小学校の新築作品である。

小学校の建築は日本においては近代化における建築設計の主流のひとつであり、また我が国においては義務教育の普及は近代国家としての一つの重要な主題であった。したがって小学校の建築も近代化の過程において木造洋風建築としての建築設計は日本各地の戦前の小学校建築の基準であり、その後都市の耐火、耐震という目的は小学校を鉄筋コンクリート建築として設計することが昭和期になって始められることとなる。これらは代表的な近代的なデザインの試みとして、表現主義的デザイン、アールデコのデザインを経て戦後には合理主義的、機能主義的デザインが主流となり、全国の多くの小学校建築は戦後の機能主義的近代的设计として設計された。この北広島町立壬生小学校校舎は機能主義的デザインが均質な教室と機能がそのまま表現された抽象的な設計の後の今日の小学校の設計として、どのような評価があるのかということが評価する基準とされた。木造の大規模建築として木造の構造は合理的かつ経済的な設計が為されていること。さらに大規模建築であるために防火区画としてはコンクリートの階段室を上手く配することで避難と防火を巧みに木造建築の中にとり入れているという建築法規上の処理に巧みな設計が為されていること。木造の小屋組の高さを利用して、夏期の温度上昇を利用した自然な力を利用した通風を可能とするよう天井高さを利用して空気温度と連動する形で内部の大空間の通風の計画が巧みになされていることなどが設計技術として評価される。さらに外観は日本の地方の里山の風景に対して屋根をもつだけでなく、黒という色彩が大規模な建物であるにもかかわらず風景との一体化するとともに、記憶の中にある小学校のような落ち着いた勉学の場としての建築として設計されている。また庇や壁において雨や日照といった自然との関係性におけるエコロジカルかつ持続的な建築として長く地域の中で存在し続けることのできる建築設計の総合性を評価した。

## 入選

## [ 田尻の家 ]



設計者      くらし設計室

施工者      ホーム(株)

## 建築概要

建設地	福山市 田尻町	用途	住宅+アトリエ
構造規模	木造 地上2階建	延面積	136.23 m <sup>2</sup>

## [ 推薦概要 ]

この住宅は郊外の小規模な住宅地の角地の住宅の敷地としては2つ分の敷地に仕事場と住居の複合的な機能を満足させる住宅というプログラムで設計されている。

敷地は2つの高低差があるが、高い方に住宅と仕事場低い方に駐車場と大きく分けてあり、低い方の敷地に住宅としては駐車場を多く取っている。このとは仕事場への来客のことも考慮してのことであると考えられるが、周囲との境界に塀を儲けることなく敷地全体が周辺に開かれるが、高低差によって住宅と仕事場と駐車場を分離することで、住宅と仕事場を周辺から塀をもちいることなく高低差で分離するという巧みな敷地の使い方としての解法を読み取ることができる。さらに北西の角には木製のデッキ空間が設けてあり、ここはプライベートな領域とパブリックな領域の複合された領域として作られ、この住宅が周辺と分離しつつも連続したものとして構想されていることが良く理解できる。このようなパブリック領域とプライベート領域の分離しつつも連続する構成は住宅内部の仕事場と居間との関係では大きな入り口を入るとそこは土間としてつくられており、その土間はそのまま仕事場へと通じているが食事室へは一段高く床を設定してあり、ここにも領域を分離しつつも連続する空間の関係ということが一貫している。さらに入り口からの土間は上部が2階までの吹き抜けとしてつくられており、ここも2階の居間部分と分離しつつも連続する構成が立体的に成立している。また建具や¥には木製建具とアルミ建具、つまり既製品と特注品をそれぞれディテールが工夫されてこの住宅を独自なものとするために設計されている。また家具についても特注品をうまく製作することでこの住宅独自の高さや大きさの寸法の周囲との関係をつくることで、工業製品と手づくりが分離されつつも連続しながらこの住宅の住み心地をつくりだしているなど住宅設計における建築士事務所としての仕事の有り様としての丁寧な作品性が成立している。

## 入選

## [ 〇邸 庭のある家 ]



設計者 テクシードコンクリート診断センター

施工者 (株)テクシード RE:FACTORY

## 建築概要

建設地	広島市 安佐南区	用途	戸建住宅
構造規模	SRC 造地上 14 階建の 11 階	延面積	74.5 m <sup>2</sup>

## [ 推薦概要 ]

この作品はマンションと呼ばれる民間の分譲集合住宅の改装、改修の作品である。我が国においては1960年代後半から民間の分譲集合住宅の建設が都市部で一般化してきた。鉄筋コンクリートの集合住宅は戦前東京市などで同潤会などの生活近代化として我が国では始まったが、公共賃貸集合住宅、いわゆる公団住宅が住宅地開発とともに始まった1950年代にすこし遅れてマンションと呼ばれる民間の住宅分譲は都市のさまざまな場所でさまざまな規模で行われるようになってとともに、分譲される資産ということで公共の集合住宅とは異なった平面計画や外部仕上げなどがなされ独自の展開をして今日の超高層分譲集合住宅いわゆるタワーマンションと呼ばれる大型の分譲集合住宅の建設に至っている。70年代に建てられたマンションがちょうど世代交代になるとともに現在さまざまな内部の改装、改修がマンション次世代の住み手によって始まっている。マンションの画一化された住み方でなく、個性豊かな住み方のさまざまな試みがされ始めた今日における改装の方法として、個性あるインテリアというだけでなくマンションにおいて庭をどのように確保するかという解法としての評価がこの作品を推薦する理由である。高層集合住宅が戸建ての住宅ともしっかりとした生活上の差異は庭をもてないことであるが、この作品は共用部分である外ベランダの壁の内側に庭として幅の狭い2重の建具によって仕切られた空間を設けたことである。この解法は単に個性的なインテリアとしての住居の改装を超えた普遍的な一つのマンションにおける庭の設計として評価した。

またこの住宅の個性を作り上げるインテリアも丁寧に細部にわたるせつけいがなされており、現代の集合住宅の改装としてもレベルの高いものである。